

米危機の改善を求める意見書

米の需要「消失」は2019年産米の過大な在庫を生み、2020年産米の市場価格は暴落し、需要減少に歯止めがかからず、2020年産米の販売不振と米価下落は底なしの状態になっている。

今年の10月末には、古米在庫が約64万トンとなり、36万トンの減産が実行されたとしても、効果自体が消散しかねない水準である。このままでは2021年産米の大暴落はもとより、来年の6月末の在庫が250万トン規模となり、2年連続の米価下落にとどまらず2022年産米価格も上昇することはかなわず、3年連続の米価暴落となれば、大規模経営でも米づくりから撤退することにつながりかねない。

かつてない危機的事態の中で、苦しむ国民と農家への支援のために、従来の政策的枠組みにとらわれない対策が緊急に求められる。

以上の趣旨から、下記事項について米危機の改善を強く求める。

記

- 1 市場に滞留する在庫を政府が買い取るなどして市場から隔離し、需給環境を改善するとともに米価下落に歯止めをかけること。
- 2 国内消費に必要な約77万トンの外国産米(ミニマムアクセス米)について、国産米の需給状況に応じた輸入数量抑制を実行すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年12月23日

岩 国 市 議 会